

傳紀貫之
桂宮舊藏萬葉集

301
10
帙入



始



佐保河乃渡之官能少歷本莫別鳥在
乍毛張之未者立隱金

天皇賜海上女王御歌一首

宇樂宮良位
天皇也



赤駒之越馬柵乃織結師妹情者疑毛奈思

あつこませらわすじまつりのしめわし
いそつこくみけうつひまの

古今業此歌擬古之作也但し時常便

賜斯奇歌

海上王奉和歌一首

志貴皇子之女也

棒弓凡引夜音之速音尔毛天之神幸

乎用之好毛

あつこませらわすじまつりのしめわし
いそつこくみけうつひまの

大伴宿奈麻呂宿祢奇二首

佐保大納言册之
第三子也

打日指宮尔行况乎真悲見留者若聽
么者為便也



うらまへとれみわよあふさふさあつたふ
つむいけくさくわれさけりあつた

難波方垣子之名凝能左右二人之見
児乎吾曰之毛

れみわつたはほひのさきりあつた
はのさきりあつた

安貴王歌一首

并短歌

速婦此間不在者玉祥之道宇多速見思
空安真因集虚不安物乎水空往雲尔毛
欲成高飛鳥尔毛欲成明日去而於妹
言向為吾妹毛事去為妹吾毛事去
久今衆見如刺而毛欲得

反歌

敷細乃手枕不纏間墨而年曾經来不
相念者

しつたりのりあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

言負言詠一弁

先帝各心之也
點語言地三之名教孔在名二人之思

遠如北州不在者王柱之道字多速見思

安女天日言言是不安物乎水空征雲尔毛
欲成鳥飛馬尔毛欲成明日去而於你
言則為吾你毛言去為你其毛言去
人言能見如副之毛欲得

友秋

秋細言言言不理用蓋而云言言言

秋言言

秋言言

右安首王娶日情以上采女係念極甚愛
情尤感於時勅断不赦之罪退却奉御
焉子是王意悼悃聊作此歌也

門部王恋一首

飯宇能海之塩子乃鹵之斤念尔思哉
将云道之永乎呼

に其りひわくをそりかたりそり
に其りひわくをそりかたりそり

右門部王任出雲守時娶部内娘子也亦
有幾時既絶往来累月之後更起愛
心仍尔此歌贈致娘子

其田王贈今城王歌一首

事清甚毛莫言一日太尔君之哭者
痛寸取勿

他律字繁言痛不相有寸心在如真思

其背子



ひととてふしけみこころあはれ
 こころあはれことあはれわのせ
 吾背子師遂常云者人事者繁有登
 毛出る相麻志乎

わのせこころあはれことあはれ
 けらまのこころあはれことあはれ

吾背子尔後者不相去常思慕今朝
 別之為便无有都滿

わのせこころあはれことあはれ
 けらまのこころあはれことあはれ

現世尔彼人事繁来生尔毛将相去者
 子今不有十方

こころあはれことあはれわのせ
 けらまのこころあはれことあはれ

常不心道之君我使不来今者不相
 宛多比奴良思

こころあはれことあはれわのせ
 けらまのこころあはれことあはれ

あふいあけりこゆるたふあわ

神龜元年甲子冬十月幸紀伊國之時為贈從駕人

所詠娘子歌一首

再經奇

笠初信金村

天皇之行幸乃随意物部乃以十伴雄与出
去之愛夫者天翔哉輕路從玉田次臥火
半見菅麻袋吉水道尔入直真土山越良
武公者黄葉乃散飛息乍親吾者不念
卓枕客宇便宜當思乍公持有如安穩
く二枝且者雖知之加須我仁點然得不
在者吾背子之往乃萬々將追飲者手
遍雖念手弱女吾身之有道守之抱回
答尔言將遠為便卒不知飲立与爪衝

反歌

後居而忘乍不宥者本國乃妹背乃凶
尔者益物卒

たふれおそこひつあさけらるる
たふれおそこひつあさけらるる
たふれおそこひつあさけらるる

吾背子之跡 願求此云者 本乃同守
伊將留鴨

竹花のこゝろもさかすまのこゝろも
たのこゝろもさかすまのこゝろも

二年し田春三月素三香原離宮之時得娘子作歌

一首 并程奇 宣朝臣金村

三香乃原客之屋 取尔珠样乃道 转去相
尔天雲之外 可见管言 将向缘乃 无者情
耳母乃有尔 天地神祇 障因与数 细乃衣
手易而自妻 能愿有今夜 秋夜之 百夜
乃长有与宿鴨

反歌

天雲之外 從見去妹 兒尔心毛 身割縁

西鬼尾

あまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
こゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

今夜之早用者 為便字 七七三秋百夜

願鶴鴨

こよひのわさわさあはれはそふれ
みあはれえいよを付るひつらえ

五年戊辰 大宰少貳石川之人朝臣遷行錢于

筑前國蘆城驛家哥三首

天地之神毛助と草枕羅行天之家左名
あめつちのうみえいそをたさあはれ
よひのわさわさあはれはそふれ

大船之念憑師天之久者吾者持立名

真相を右ニ

おほふけのたまひのまよふあはれ
おほふけのたまひのまよふあはれ

山越道々鳴乃浦廻ふ縁浪回せ

吾之巻者

わまとしれしあのうらわはれ
あはれいんあはれいんあはれ

右三首作者未詳

大伴宿禰三依哥一首

ひりわのものがむらさき

有茂女王贈大伴宿禰三依一首

坂左大臣長屋
乙之女也

抗紫船未毛不未昔傳志振云乎見之悲左

ア〜少ねあしん〜をいけけつた〜

あ〜ふ〜も〜も〜を〜う〜た〜

云師宿禰水道從抗紫と京海路作歌二首

大船守務乃進尔誓尔獨宿志復然念母而者

お〜ま〜の〜は〜こ〜の〜は〜ま〜い〜ら〜

か〜つ〜け〜る〜れ〜も〜た〜よ〜り〜

干髮於神之祐尔我指以幣者將賜財

余不相聞

し〜け〜わ〜あ〜る〜う〜え〜た〜わ〜ら〜る〜

わ〜せ〜る〜ら〜し〜け〜る〜あ〜い〜え〜に〜あ〜る〜

大宰大監大伴宿禰百代恋歌一首

事毛無生来に物守老余羨尔如是

之乎毛吾者過流者聞

い〜と〜も〜れ〜と〜あ〜わ〜る〜 ま〜の〜ゆ〜ら〜い〜れ〜

いそぐはくはもけいなるはわらわし

有茂女王歌一首

大伴乃見津泣者不云未根指眼有

月夜尔直相在登闻

おほはるるのちをけいしき あのをと

いそぐはくはもけいなるはわらわし

大伴大造大伴宿禰不代奇始驛使奇二首

草枕霜行君身爰見別る曾未日

庶乃濱造字

らるるるるるるるるるるるるるるるる

もるるるるるるるるるるるるるるるる

右一首大造大伴宿禰不代

周村在磐田山字将超日者手回好為

与是是具造

いほりれりるるるるるるるるるるるる

らるるるるるるるるるるるるるるるる

右一首少典山台志寸若麻呂

うらまのころんそむといまむころま
乃こころのまをたれまぬゆきと

山辺を去るくま日乃を付者野之鹿

毛動るる鳴

たまふんじまみのつひのりつたれま
のりたつひのりまもみそりれま

右二首大曲海田連湯云

月夜音河音清を率此間行も不云を
遊る好端

つらうしのかき力れとまあひのあま
ゆきもまあまあまあまゆきゆき

右一首付人佐大徳曰

大宰府大伴野上京之後沙弥浦松贈銀哥二首

真十鏡見不飽君尔所贈哉旦夕尔左
備右将居

まのつみあつそまもまのれまわ
あまゆきつたあまひつたま

野子玉之里 爰日 媛手 裳痛 忘庭
相時 有來

じそ たまは ろろろ みのおろりーとけて
えいしよよ あらゆる あふとや あらゆる

大納言大伴和歌二首

此間在而筑紫也 何處 白雲乃 棚引山
之才 西有良思

ここのあちや ちやわいつこーとんん
川少くわ ちやれもたあささ

草香江之入江ニ 求食 盧鵝乃 痛多是
多頭思 友無ニ 指天

らそつそせりさく あそろあーつれ
あれつづーしーらもたのそや

大宰帥大伴銀上京之後 筑後守葛井連大藏忠歌作歌一首

從今者 城山道 志不 樂事 吾乃 道常 念之 物亦
いまより けまわ ちやれもたあささ
わつよそむじ けりひーこのそ

大納言大伴卿新禮贈橋達大夫為安王歌一首

吾衣人眞若曾納 爲難波此士乃手尔者能弱

わろまわむとほろけきまをて あはれいさるれ

りけむと、れこたに

大伴宿禰三依悲別歌一首

云地と去久行は軍ぶ念る者 宿禰之庭雨雲

あめつとと、いしにちをそ なるあつとむと

其れとてあり、いつらも

余明軍典大伴宿禰家持歌二首

明軍者大納言
卿之首人也

奉見る未時太尔不更者必年月所念者

もあつかり、いまたごまうしたつとそむれ

ごつとそむれ、もあつかり

之引乃山尔生有若根乃慈見卷欲夫一肉

あしあしれあつたおあつらるけりけりね

ひい入もあつらるけりけり

大伴坂上家之大娘報贈大伴宿禰家持歌一首

生る者志見卷毛不知何如色持死与

妹昔夢所見鶴

いよりのほろけきまをてあつらるけりけり



のちさるのこんあさむし。れんふこく
 くわつふんけふにあまこふあれ
 華可乎後毛相款勲吾字令愚而不相
 可聞
 もふ乃みはるんあはむとむむこんり
 何れやあ乃あそこむむとこんりえ

更大律宿祢家持贈坂上大嬢奇十五巻

夢らく相去昔有家里覚ては捨探友手二
 毛不所觸者

ゆのふあふはるるかりむむれとんり
 こつこつこつこつこつこつこつこつ

一重可妹之持結帯字尚二重可結帯
 身者成

ひとん乃みつるむあそむれはひさむ何
 みんふゆふんあむみ付ふわね

其去去子引乃石衣七許頭二持結帯
 母袖多法伏

わつこひあそむあむむむむむむむむ
 らひふこんこんこんこんこんこんこん



少もめしとあはれしと
夢二谷所見者社有如此祥不見有
者多而死泣者

ゆめをうたみえはくさる
念純和備而物尾中中荷奈何幸甚相
見始也

相見与者我日毛不短尔
比尔久信必所念鴨

如是許面影可所念未何如
相見者須由之哀者尔未六者登臨会跡

志意未
夜之穂折与五出与未者五妹子之念

有日九甲面数二二湯

小八持産

いづれらむとてふらむいづれむとてふらむ
かゝるもふたりのまをしめしめ

右田村大娘坂上大娘並是名大嬢大
住宿宗麻呂卿之女也娘居田村里号
曰四村大嬢但娘坂上大嬢者母居坂
上里の曰坂上大嬢于时姉妹認以内

歌贈卷

大伴改上郎女従竹田広贈女子大嬢等二首

打渡竹田之田原尔鳴鶴之間其時云
吾之慈良久彼

うらわらむたけのあそびたをりて死
まなすさうのわらふこころを
早河之端尔居鳥之縁尔宗弥念而
有師吾之見羽裳何恰

はわらふそのさきあはるざりたよむれに
おもしろくありわらふ人あはれ

紀女郎贈大伴宿称家持歌二首

女師名曰少座也

神在夫欲不飲者不有也 多八如是
而後二佐夫之家年可聞

うんそくをいふはれとるのあらは
かきくくのそとあそび心えん

玉緒半味緒二搦り結有者在手後
二毛不相在目八言

うまはむくあわさたよわてむそつる
あわさのそよんあはそらめん

大伴宿禰家持和歌一首

百年尔老古出ると余年友吾志不
狀忘者益也

いそとたにおいとそひうむよむん
わはえいも何いこふそあかじえ

在之迹京思留寧樂宅坂上大棟大伴宿禰家持和歌一首

一隔山重成物年月夜好見門ふ書立
妹可持結

はらあまのこころのふつふふふ
にいつしつらいつらあかん

藤原郎女聞之即和哥一首

路遠不來常波知有物可良尔然曾
將約天之目乎保利

みちをほみこし。けしわつさめりて大
いさあつてむすみめふたひ

大伴宿祢赤持更贈大娘等二首

都路宋連我妹之比来者得餉飯而
雖宿夢尔不可見来

みわつらとてどほみわいものこのふんを
うらまをぬかすゆめのみをさそわ

今所知人迹乃余尔妹二不相久成行而

早見余

いまそつらとてのふわらふものあはれ
しそつらとてのふわらふものあはれ

大伴宿祢家持報贈纪女弟等二首

人世之雨多落日尔直独山透尔居

者必望有来

ひそつらとてあめのみそつらとて
たまふるふらふいそつらとて

大伴宿禰家孫從之速京贈政上大姊歌五首

人眼多見不相可曾情在信妹字忘
云云念真因

此めおらけは女あそそるあひここい
てんいそそわそんそわあうけいそそ
偽毛以討与曾為流打布衣衣真五
妹也去尔忘目い

いづそりえよそいそそそそそ
んまよとわすそわすそそそそ
夢尔谷將所見常去者係行毛友不相
志思昔語不所見有武

ゆめよそそとわすそそそそそ
あひそそわすそそそそそそ
事不同木為味狹藍諸弟寺之煉乃
村戸之所詠來

百子通慈波云友諸弟尔之煉乃言
羽者云波不信

板蓋之里木乃屋根者山越之明日郎
而待的参来

つたすそみんそんまのわけをわすし
あはれにぞめてにえりあわさし

黒樹取草毛利作仕目利勤知氣登
得参十才不有

くろくまさん、わすらん、ほつるあこ
ゆのりには、ほめむとそあくら

野干玉能昨夜者合兼今夜左信五
宇逢真路之長手呼

うまを、まは、よむつる、うまを、まは
へわね、かろ、ま、い、ま、ね、た、ま、を、ま

紀女郎畧物贈友歌一首 女郎名曰小原也

風為遣者雖次為妹神左信所伝与
刺流玉彦彦

かぜをたづみつゝはるなをいささあ
うそつる人のあはれ、うれつゝあまの

大徳元后社家持婚娘子女歌三首

前年之先年從至今年之惡也余
の色妹不相離

ふとふとふとふとふとふとふとふと

こそれとふとふとふとふとふとふと

打た之波更毛不得言夢谷妹とて

存本纏宿常思見者

うらうらうはととらんはとらんはとらん

にうらうらうはととらんはとらんはとらん

吾屋戸之草上白久置露乃青母

不情妹尔不相有者

わらわはととらんはとらんはとらんはとらん

はとらんはとらんはとらんはとらんはとらん

大伴宿祢宮村報贈藤原朝之入須麻呂歌之旨

春之雨者妹希落尔梅花未咲久待

お若美可因

はら乃あめをよむわらわはとらんはとらん

はとらんはとらんはとらんはとらんはとらん

如夢所念鴨愛ハ師天ノ使乃麻祢
久通者

ゆめなるあなとおん何ゆきんすし之如
志るまいつつうとひ乃未時んつうん者

浦若見花咲雖寸梅字殖る人之事

重三念曾共る類

うらわつみそんれとこふつたるえんあな字
街とひととあし計兒おん世まひまる

又家持贈藤原朝正久須磨歌二首

情ハ于一所念う御春霞抱引時

事ハ通者

傳紀貫之書 桂宮舊藏

萬葉集

釋文

全



桂宮舊藏萬葉集解題並釋文

題



本安朝に於ける萬葉集の書寫本で五種萬葉と稱せらるゝものゝ一つである桂宮舊藏萬葉集はもと桂宮家にあつた所からこの名があるが、畧して桂本萬葉、又は單に桂萬葉と云つてゐる。もともとは前田家は傳はつたものであるが、後八條宮後に桂宮といふに奉り、更に明治に至つて御物となつたものである。この巻は、萬葉集卷四の相聞を書いたものゝ零巻で、百九首、四百九十三行を收めて居る。今田中親美氏の手で複製本が出来てゐるが、料紙は鳥の子で、緑、白、淡紅、紫、朽葉、藍、茶、綠、白、極淡紅、白、紫、朽葉、藍、黄、藍の順序に十六葉の色紙を繼ぎ、金銀泥をもつて花、鳥、木、水、岩などの下繪を書いたもので、各紙の長さ一尺六寸六分乃至一



尺六寸二分あり、紙の各々の綴目の裏には花押がある。
先へのべた様に、これは萬葉集卷四相聞を書いたものであるが、
卷首四十五首、中程で百五十二首、巻尾に於て三首を缺いてゐる。
けれ共もとは全部書いたものであらう。今巻首の四十五首散佚しな
がら現存してゐるものは吉田丹左衛門氏舊藏一首、關戸守彦氏所藏
三首、山田氏所藏の數行である。なほこの外にこの集の斷片として、
益田男所藏の三首、井上侯舊藏の三首、原富太郎氏藏の三首等があ
り、いづれもこれ等は前田家に入る以前に散落したものであらう。
この集の筆者は紀貫之と傳へられてゐるけれども、勿論これは多
くの假名の筆者と同様信することは出来ない。

釋 文

佐保河乃涯之官能、少歷木莫荊、鳥在

乍毛、張之來者立隱金、

天皇賜海上女王御歌一首樂宮即位天皇也

赤駒之、越馬欄乃、絨結師、妹情者、歎毛奈思、

あ可こま能こゆるむま於りのしめゆ悲志

い毛可こ、呂はう多可ひ毛なし

右今案此歌擬古之作也、但以時當便

賜斯歌歎、

海上王奉和歌一首志貴王子之女也

梓弓爪引夜音之、遠音爾毛、君之御幸

乎、聞之好毛、

あづさゆみつめひ久よどのとほとに毛
き美可みゆ支をき久はうれし毛

大伴宿奈麻呂宿禰歌二首佐保大納言卿之
第三子也

打日指宮爾行兒乎真悲見留者苦聽

去者爲便無

うち悲さ敷みや爾ゆくこ遠ま可なしみ

とむればくるしやれ者須べな志

難波方鹽干名疑飽左右二人之見

兒乎吾四乏毛

那爾者可たしほひのなごりあくまでに

ひとのみるこをわれしと毛し毛

安貴王歌一首並短歌

遠婦此間不在者玉梓之道乎多遠見思

空、安莫國、嘆虛、不安物乎、水空往、雲爾毛

欲成、高飛鳥爾毛欲成、明日去而、於妹

言問、爲吾妹毛事無、爲妹、吾毛事無

久、今裳見如、副而毛欲得

反歌

敷細乃、手枕不纏、間置而、年曾經來、不

相念者

し支たへの多まくらま可敷へ多て於支て

としぞへ爾けるあ者じとお毛へば

右安貴王娶因幡八上采女、係念極甚、愛

情尤盛、於時、勅斷不敬之罪、退却本郷

焉、于是王意、悼恒、聊作此歌也

門部王戀歌一首

既宇能海之鹽干乃鹵之片念爾思哉
將去道之永手呼

於うのうみ能しほ悲の可多能可たお毛ひ
にお毛ひやる可毛美ちのな可てに

右門部王任出雲守時娶部内娘子也未

有幾時既絶住來累月之後更起愛

心仍此作此歌贈致娘子

高田女王贈今城王歌六首

事清甚毛莫言一日太爾君□之哭者
痛寸取勿

他辭乎繁言痛不相有寸心在如莫思

吾背子

ひとごとをしげみこち多みあ者ざれ者

こゝろあるごとおもふ那わ可せ
吾背子師遂常云者人事者繁有登
毛出而相麻志乎

わ可せこしと今むといはゞひごごとはし
げくありと毛いてゝあ者ましを

吾背子爾復者不相香常思慕今朝

別之爲便無有都流

わ可せこにま多はあ者じとおもへ者可

けさのわ可れの春へ那可り徒る

現世爾波人事繁來生爾毛將相吾背

子今不有十方

このよ爾はひとごとしげ志こむよに毛あ
はむわ可せこいま那ら春ご毛

常不止、通之君我、使不來、今者不相跡、
絶多比奴良思、
ごことは爾可よひし支み可つ可ひこ數い
ま者あはじと多ゆた悲ぬらし

神龜元年甲子冬十月幸紀伊國之時爲贈從駕人
所誦娘子作歌一首並短歌笠朝臣金村

天皇之行幸乃隨意、物部乃八十伴雄與、出
去之、愛夫者、天翔哉、輕路從、玉田次、畝火
乎見管、麻裳吉、水道爾入立、眞土山、越良
武公者、黃葉乃、散飛見乍、親吾者不念、
草枕、客乎便宜常、思乍、公將有跡、安蘇
々々破、且者雖知、之加須我仁、默然得不
在者、吾背子之、往乃萬々、將追跡者、千

遍雖念手弱女、吾身之有、道守之、將問
答乎、言將遣、爲便乎不知跡、立而爪衝

反歌

後居而、戀乍不有者、木國乃、妹背乃山爾、有益物乎、
於くれゐてこひつゝ、あら須者ききのくに
のい毛世能、やまにあらまし毛のを
吾背子之、跡履求、追去者、木乃關守

伊將留鴨

わ可せこ可あと不み毛とめ於悲ゆ可ば
きの世支もりやとくめ天む可毛

二年乙丑春三月幸三香原離宮之時、得娘子作歌

一首並短歌 笠朝臣金村

三香之原、客之屋取爾、珠柝乃、道能去相

爾天雲之外耳見管言將問緣乃無者情
耳咽乍有爾天地神祇辭因而敷細乃衣
手易而自妻跡憑有今夜秋夜之百夜
乃長有與宿鴨。

反歌

天雲之外從見吾妹兒爾心毛身副緣
西思尾。

あま久毛のよ曾に美しよりわ支もこに
こゝろもみさへよ利爾し毛のを
今夜之早開者爲便乎無三秋百夜乎
願鶴鴨。
こよひのや者や久あ久れば春べを那
みあきの毛々よ遠ね可ひつる可毛

五年戊辰 大宰少貳石川足人朝臣遷任餞于

筑前國蘆城驛家歌三首

天地之神毛助與草枕羈行君之至家左右

あめつちのかみ毛多春けよ久散ま久ら

たびゆ久支みのいへにいたるまで

大船之念憑師君之去者吾者將戀名

直相左右二。

おほふねの於毛ひ多の美し支み可い那者

われはこ悲む奈たゞにあふまでに

山跡道之島乃浦迫爾緣浪間無牟

吾戀卷者。

やまとち能しまのうらわ爾よ春る那み
あひ多毛な个むわ可こ悲まく盤

右三首作者未詳

大伴宿禰三依歌一首

吾君者、知氣乎波死常、念可毛、相夜

不相夜、二走良武。

わ可支みはわ今をばしねとお毛ふ可毛あ
不よあ者ぬよ、ませ那るらむ

丹生女王贈大宰師大伴卿二首

天雲乃、遠隔乃極、遠鷄跡裳、清志行者、

戀流可聞。

あまのく毛のへ多ての支はめとは今ども

こゝろしゆけ者こ不る毛の可毛

古、人乃令食有、吉備能酒、痛者爲便
無、貫箒賜牟。

い爾しへのひとの、ませる支びのさけや
毛は、春べ那ぬ支數たま者む

大宰師大伴卿贈大貳丹比縣守郷遷任民部卿歌一首

爲君、釀之待酒、安野爾、獨哉將飲、友無二
思手。

支み可多めし多み志さけをや春のゝに

ひとりやのまむと毛なしにし天

賀茂女王贈大伴宿禰三依歌一首故左大臣長屋主之女也

筑紫船、末毛不來者、豫、荒振公乎、見之悲左。

つ久しふねま多毛こざればかねてよ利

あらぶる支みを美し可、なし散

土師宿禰水道從筑紫上京海路作歌二首

大船乎、榜乃進爾、磐爾觸、覆者覆、妹爾困而者、
おほふねをこ支の須み爾い者爾ふれ
かへらは可へれい毛によ利ては
平盡破神之社爾、我掛師弊者、將賜、妹爾不相國、
ちはやぶる可みのやしろ爾わ可し
ぬさ者多ばらむい毛にあ者那久に
大宰大監大伴宿禰百代戀歌四首
事毛無、生來之物乎、老奈美爾、如是
戀乎毛、吾者遇流香聞、
こと毛那久、利こし毛の遠おい那美爾
可るこ悲爾毛、われ者あへる可毛
孤悲死牟、時者何爲牟、生日之爲社妹
乎、欲見爲禮。

こひし奈むのちはな爾世むいけるひ
の多めこ曾い毛遠美まほしみ春禮
不念乎、思常云者、大野有三笠社之、神思知三、
お毛はぬを於毛ふといはくお保の那る
美可散能毛りの(かみししらすむ)
無暇、人之眉根乎、徒、令搔乍、不相妹可聞、
いとま那支ひこのまゆねをいたづら爾
可しめつゝもあ者ぬい毛可毛
聞大伴坂上郎女歌二首
黒髪二、白髮交、至者、如有戀、逢未相爾、
久ろ可みにしらかまじりて於いたれど可
可るこひ爾はいまだあ者那久に
山菅之、實不成事乎、吾爾所依、言禮

師君者、與孰可宿良牟。
やま春げのみ那らぬことをわれ爾より
い者れしき美は多れとねぬらむ

賀茂王女歌一首

大伴乃見津跡者不云、赤根指、照有

月夜爾直相在登聞。

おほと毛のみつとはい者じあ可ねさし
てれるつ支よに多々爾あへ利と毛

太宰大監大伴宿禰百代等贈驛使歌二首

草枕、羈行君乎、愛見、副而曾來、四

庶乃濱邊乎。

久さ未久ら多びゆ久支みをうつ久し
美多く悲て曾こし、かの者未へ耳

右一首大監大伴宿禰百代

周防在磐國山乎、將超日者、手向好爲

與荒其道。

春はう那るい者久にやまをこえむ悲は
多む个よ久せよあらしそのみち

右一首少典山口忌寸若麻呂

以前天平二年庚午夏六月、師大伴卿、忽生

瘡脚、疾苦枕席、因此馳驛上奏、望請庶

弟稻公姪胡麻呂、慇語遣言者

勅、右兵庫助大伴宿禰稻公治部少丞大伴

宿禰胡麻呂兩人、給驛發遣令省卿病、而

逕數旬、幸得平復、于時稻公等以病既療

發、府上京、於是大監大伴宿禰百代少典山

口忌寸若麻呂及卿男家持等相送驛使
共到夷守驛家聊飲悲別乃作此歌

大宰師大伴卿被任大納言臨入京之時府官
人等餞卿筑前國蘆城驛家歌四首

三崎廻之荒磯爾緣五百重浪立毛居

毛我念流吉美

美散支まひあらい曾によ數るいほつ那
み多ちて毛ゐてもわ可お毛へるきみ

右一首筑前椽門部連石足

辛人之衣染云紫之情爾染而所念鴨
可ら悲とのころ毛そむとい不むら散支
のこゝろ爾しみて於毛保ゆる可毛
山跡邊君之立日乃近付者野立鹿

毛動而曾鳴

やまとへと支み可多つひのち可けれ者
の爾たつし可毛とよみて曾那久

右二首大典麻田連陽春

月夜吉河音清之率此間行毛不去毛

遊而將歸

つ支よゝしか者の於と春めりい散こゝに
ゆ久毛とまる毛あ曾悲てゆ可舞

右一首防人佑大伴四綱

大宰師大伴卿上京之後沙彌滿誓賜卿歌
二首

眞十鏡見不飽君爾所贈哉且夕爾左備
乍將居

ま敷可^かみあ可^かざる支^しみ爾^に於^お久^くれてや
あし多^たゆ不^ふべに散^ちびつゝをらむ
野子玉之、黒髮變、白髮手裳、痛戀庭、
相時^{あひま}有來。
む者^むたま能^のくろ可^かみか者^はりしらけて
毛^もい多^た支^しこ悲^ひ爾^にはあふときあ利^りけり
大納言大伴卿和歌二首
此間在而筑紫也何處白雲乃棚引山
之、方西有良思、
こゝにあ利^りてつ久^くしやいづこしら久^く毛^もの多^た
那^な悲^ひくやま能^の爾^にしにあるらし
草香江之、入江二求食、蘆鶴乃、痛多豆
多頭思、友無二指天。

くさ可^かえ能^のいりえにあさるあし多^たづ能^の
あ那^な多^たづんしと毛^もなし爾^に志^して
大宰師大伴卿上京之後筑後、守葛井連大成悲嘆作歌一首
徒今者、城山道者、不樂牟、吾將通常、念之物乎、
いまよりは支^しやま能^のみちは久^くるし个^こむ
わ可^かよ者^はむとあ毛^もひし毛^ものを
大納言大伴卿新袍贈攝津大夫高安王歌一首
吾衣、人莫著曾、網引爲、難波壯士乃、手爾者雖觸、
わ可^か支^しぬをひと爾^に那^なき世^よあびき數^{かず}る那^な
爾^にはをとこ能^の天^てに者^は不^ふると毛^も
大伴宿禰三依悲別歌一首
天地與共久、住波牟等、念而有師、家之庭羽裳、
あめつちとゝ毛^もに悲^ひさし久^く須^すま者^はむと

お毛ひてあ利しいへの爾は、毛

余明軍與大伴宿禰家持歌二首明軍者大納言

奉見而、未時太爾不更者、如年月所念君。

みまつ利ていまだと支多に可者らね者

としつ支能ごとお毛保ゆるきみ

足引乃、山爾生有、菅根乃、勲見卷、欲君可聞。

あし悲支能やまにお悲多る須可のね能ね

むこ呂美ま久保し支、み可那

大伴坂上家之大娘、報贈大伴宿禰家持歌四首

生而有者、見卷毛不知、何如毛、將死與

妹常夢所見鶴

い支てあれば美まく毛しら數い可爾可毛

しな无よい毛とゆめにみえ徒る

丈夫毛、如此戀家流乎、幼婦之、戀情爾比

有目八方。

ま數らを毛可くこひ个るを多乎やめ能

こ不るこゝろにならへらめや毛

月草之、徒安久念可母、我念人之、事毛告不來。

つ支く散能うつ呂悲や春久お毛ふ可毛わ可

おもふ人のこと毛つ个こぬ

春日山、朝立雲之、不居日無、見卷之欲

寸、君毛有鴨。

可春可やまあさ多つ久毛のぬ悲那久

美ま久能ほしき、み爾毛ある可那

大伴坂上郎女歌一首

出而將去、時之波將有乎、故、妻戀爲乍。

立而可去哉。

而可死念者

よ能^のな可^かの久^くるしき毛^のの爾^にあ利^りけら久^く
こひ爾^に多^たへ春^すてしぬべ久^くお毛^へ者^は

又家持和坂上大嬢歌二首

後湍山、後毛將相常念社、可死物乎、至

今日毛生有。

のち世^せやまのち毛^のあ者^はむと於^お毛^のふこ曾^そ

しぬべ支^し毛^の能^の乎^けふ末^ま天^{てん}毛^のあ禮^れ

事耳乎、後毛相跡、黜吾乎、令憑而、不相

可聞。

こと爾^に乃^の美^み能^の知^ち毛^の安^あはむと爾^にむこ呂^ろ耳^に

和禮乎、多乃め天受盤、ざら无可毛

更大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌十五首

夢之相者、苦有家里、覺而、搔探友、手二
毛不所觸者。

ゆめ爾^に安^あふ波^は久^くるし加^か利^り計^け里^り於^おどろ支^し低^て

可支^かさ久^く禮^れと毛^の天^{てん}爾^に毛^のふ禮^れ禰^に盤^{ばん}

一重耳、妹之將結、帶乎向、三重可結、吾

身者成。

ひとへ乃^の美^み以^い毛^の可^かむ數^す者^はむ於^おび毛^のな保^ほ

美^みへ爾^にゆふべ久^く和^わ可^か美^み波^は奈^な利^りぬ

吾戀者、千引乃石乎、七許、頭二將繫

母、神之諸伏。

和可^わこひ者^はちび支^し能^の以^いしを那^な者^は可^か利^り

久^くび爾^に可^か个^こ天^{てん}毛^の可^か美^み乃^の毛^のろふ志^し

暮去者、屋戸開設而、吾將待、夢爾相見
二、將來云比登乎。
ゆふさ禮者やと安計末、今天和禮末、多无
遊め爾あひ美爾こむと以ふひ東を
時夕二、將見時左倍也、吾妹之、雖見如
不見、由戀四家武。
あさゆふ爾美むと支さへや和支毛こ可
美禮東安可ぬご東與しこひ之、个む
生有代爾、吾者未見、事絶而、如是、何怜、
縫流囊者、
以計る、與爾和禮者、未多美數、こと多え、天
吾妹兒之、形見乃服、下着而、直相左右
者、吾將脱八方

吾支毛こ可、多美能支ぬ乎、志多爾支、天
多、爾あふ末、天波王禮ぬ可めや、毛
戀死六、其毛同會、奈何爲二、人目他言、辭
痛吾將爲。
こひ之なむ會禮毛於な之、那以可爾之、天
悲とめひ東ごとち多から世む
夢二谷、所見者社有、如此許、不所見有
者、戀而死跡香。
ゆめ爾多にみえはこ會あらめか久ば可
り美え數之、ある盤こ非天之、ね東可
念絶、和備西物尾、中荷、奈何辛苦相
見始兼。
お毛ひ多えわび爾し毛のを、那可、耳

なに可^か久^くるし九あ悲^ひみ會^あめ个^げ舞^ま
相見^あ而^り者^も幾日毛不^な經^か乎^や幾許毛久^く流^り
比爾久流必所念鴨
あひみてはいく可^か毛^もへぬをこ^こばく毛^も
くる悲^ひに久^くるひお毛^も保^たゆる可^か毛^も
如是許^か而^り影^{かげ}耳^{みみ}所念^{しよん}者^も何如將爲^{いかでか}人目繁^{ひとめ}而^り
可^か久^くば可^か利^りお毛^も可^かげ爾^に能^のみお毛^もほへ盤^{ばん}
い可^か爾^に可^か毛^も世^せ無^むひとめし个^げ久^くて
相見^あ者^も須叟戀^{こひ}者^も奈木六香登^{なむろくかうとう}雖念彌^{すいねんみ}
戀益來^{こひえき}
あひみて者^{もの}しはしこひし散^ちな支^しむ可^かと
お毛^もへ東^{あづま}いとこ悲^ひま散^ち利^り个^げ梨^り
夜之杼呂吾出^{よのしゆりご}而^り來^き者^も吾妹^{ごめい}子^こ之^の念^{ねん}

有^あ四^し九^く四^し面^{めん}影^{えい}二^に三^{さん}湯^ゆ
よのほど呂^{りよ}わ可^かいでくればわか毛^もこ可^かお毛^もへ
利^りし久^くよ於^お毛^も可^かげ耳^{みみ}美^みゆ
夜之穂^{よのほ}杼^{しゆ}呂^{りよ}出^い都^と追^お來^き良^ら久^く遍^{へん}多^た數^{すう}
成^な者^{もの}吾^ご胸^{むね}截^{せつ}燒^{しょう}如^に
よ能^のほど呂^{りよ}いでつらくらんあま多^たへび
なれ者^{もの}わ可^かむね支^しりやく可^かこ東^{あづま}
大伴^{おほとも}田^た村^{むら}家^け之^の大^{おほ}娘^{むすめ}贈^{たま}坂^{さか}上^{のうへ}大^{おほ}娘^{むすめ}歌^{うた}四^し首^{しゆ}
外^{そと}居^ゐ而^り戀^{こひ}者^{もの}苦^{くる}吾^ご妹^{めい}子^こ乎^や次^{つぎ}相^あ見^み
事^{こと}計^{けい}爲^な與^よ
よ所^{ところ}爾^にあてこふれ者^{もの}久^くるしわ可^かもこを
つぎてあひみむ多^たば可^かりを世^よ與^よ
遠^{とほ}有^あ者^{もの}和^わ備^び而^り毛^も有^あ乎^や里^{さと}近^{ちか}有^あ當^{あた}聞^き

乍、不見之爲便奈紗。

とほくあればわびて毛あるを左とち可
くお利と支、つゝみぬ可春べ那散
白雲之、多奈引山之、高高二、吾念妹
乎、將見因毛我毛。

しら久毛の多那悲くやま能多可たに
わ可おもふい毛を美むよしも可毛

何時爾加妹乎、牟具良布能、穢屋戸
爾、入將座。

い可那らむと支に可い毛をむ久ら不能
个可し支やどにいりま世しめ舞

右田村大嬢坂上大嬢並是右大辨大
伴宿奈麻呂卿之女也、卿居田村里號

曰田村大嬢、但妹坂上大嬢者、母居坂
上里、仍曰坂上大嬢、于時姉妹語以問

歌贈答

大伴坂上郎女、從竹田庄、贈女子大嬢歌二首

打渡、竹田之田原爾、鳴鶴之間、無時無、

吾戀良久波。

うちわ多數たけ多の者良になく多づ能

まなしと支那しわ可こふら久者

早河之、湍爾居鳥之、縁乎奈彌、念而

有、師、吾兒羽裳何怜。

はや可者の世爾あるとり能よしを那三

お毛ひてお利しわ可こは毛あ者禮

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首、女郎名曰小鹿也。

神左夫跡、不欲者不有、八也多八、如是爲
而後而、佐夫之家、卒可聞
可み左不、とい那と爾はあら數
か久してのちに散不し、今む可毛
玉緒乎、沫緒二撓而、結有者、在手後
二毛、不相在目八方
多ま能を、あ利をによ利てむ春べらば
あ利てのち爾毛あはざらめや毛
大伴宿禰家持和歌一首
百年爾老舌出而、與余卒友、吾者不
厭、戀者益友
毛、と世におい久ちひ曾むよ、むと毛
われ者いとはじこひ者ま數と毛

在久邇京思、留寧樂宅坂、上大嬢、大伴宿禰家持歌一首
一隔山、重成物乎、月夜好見、門爾出立、
妹可將待
ひとへやま可左那る毛のをつ支よ、み可と
にいで多ちい毛可まつらん
藤原郎女聞之、即和歌一首
路遠、不來常波、知有物可良爾、然曾
將待、君之目乎保利
みちとほみこじとはしれる毛の可らに
し可ぞまつらむ支み可めをほり
大伴宿禰家持更贈大嬢歌二首
都路乎、遠哉妹之、比來者得、飼飯而
雖宿、夢爾不所見來

みやこちをさほみやい毛のこのころ者
うが悲てぬれ東ゆめ爾みえこぬ

今所知久邇乃京爾妹二不相久成行而
早見奈

いまぞしる久二のみやこ爾い毛爾あは數
ひさし久な利ぬゆ支てやはみ那

大伴宿禰家持報贈紀女郎歌一首

久堅之雨之落日乎直獨山邊爾居

者舊有來

ひさ可多能あめの不るひを多々ひとり
やまべにをればいふ世可利个里

大伴宿禰家持從久邇京贈坂上大嬢歌五首

人目多見不相耳會情左倍妹乎忘

而吾念莫國

ひとめおほみあ者ざるのみぞこころ

さへい毛をわ春れてわ可お毛はな久に

偽毛似付而會爲流打布裳眞吾

妹兒吾爾戀目八

いつ者り毛爾つきて會須るうちしき

毛まことわ支毛こわ禮爾こひめや

夢爾谷將所見常吾者保杼毛友不相

志思者諾不所見有武

ゆめ爾多にみえむとわれ者ほどけど毛

あひしお毛はね盤むべみえざらむ

事不問木尙味狹藍諸弟等之練乃

村戸二所詐來

百千遍戀跡云友諸弟等之練乃言
羽者吾波不信。

大伴宿禰家持贈紀女郎歌一首

鶉鳴故郷徒念友何如裳妹爾相縁毛無幾
うづら那久不るきさとよりお毛へど毛
な爾ぞ毛い毛にあ不よし毛な幾

紀女郎報贈家持歌一首

事出之者誰言爾有鹿小田山之苗代

水乃中與杼爾四手。

ことでしは多可ことにある可をやま多能
な者し呂美づのな可よど爾して

大伴宿禰家持更贈紀女郎歌五首

吾妹子之屋戸乃離乎見爾往者蓋
從門將道却可聞。

わ支毛こ可やどのま可支を美爾ゆ可者
个多しかどより可へしてむ可毛

打妙邇前垣乃醉堅欲見將行常云

哉君乎見爾許曾。

うつ多へ爾ま可支の須可多美まほへみ
ゆ可むといへやき美をみ爾こ曾

板蓋之黒木乃屋根者山近之明日取

而持將參來。

いた不支能久ろ支のやね者やまち可し
あ須毛と利ては毛てまる利こむ
黒樹取草毛荏乍仕目利勤知氣登。

將譽十方不有。
 久ろ支とり可や毛可りつ、徒可へめど
 ゆめしりに支とほめむと毛あ良數
 野于玉能、昨夜者令還、今夜左倍、吾
 乎還莫、路之長乎呼。
 う者多ま能よむべ者可へるこよひさ
 へわ禮乎かへ春那みち能な可てを
 紀女郎裏物贈友歌一首女郎名曰小鹿也
 風高、邊者雖吹、爲妹袖左倍所沾而、
 荊流玉藻焉。
 可世た可みへ爾は不今ど毛い毛可多め
 曾で散へぬれて可れる多ま毛可
 大伴宿禰家持贈娘三首

前年之、先季從、至今年戀跡、奈
 何毛妹爾相難。
 をと、しのさいと、しよりことしまで
 こ不れどなぞ毛い毛にあひ可多き
 打乍二波、更毛不得言、夢谷、妹之手
 本乎、纏宿常思見者。
 うつ、爾はさらに毛い者數ゆめ爾多
 にい毛可多毛と乎ま支ぬとしみ者
 吾屋戸之、草上白久、置露乃壽母
 不有惜、妹爾不相有者。
 和可やど能久さば爾しろ具於久川ゆ乃
 い能ち毛散衛禮い毛爾あ者ざ禮盤
 大伴宿禰家持報贈藤原朝臣久須麻呂歌三首

春之雨者、彌布落爾、梅花未咲久伊
等答美可聞。

はる乃あめ者いやし支不爾无め能者
那いま多さ可那久以東和可み保裳

如夢、所念鳴愛八師、君之使乃、麻禰

久通者。

ゆめ能こ度お毛保ゆる可毛支三ゑや
志支み可つ可ひ乃末禰久可與へ者

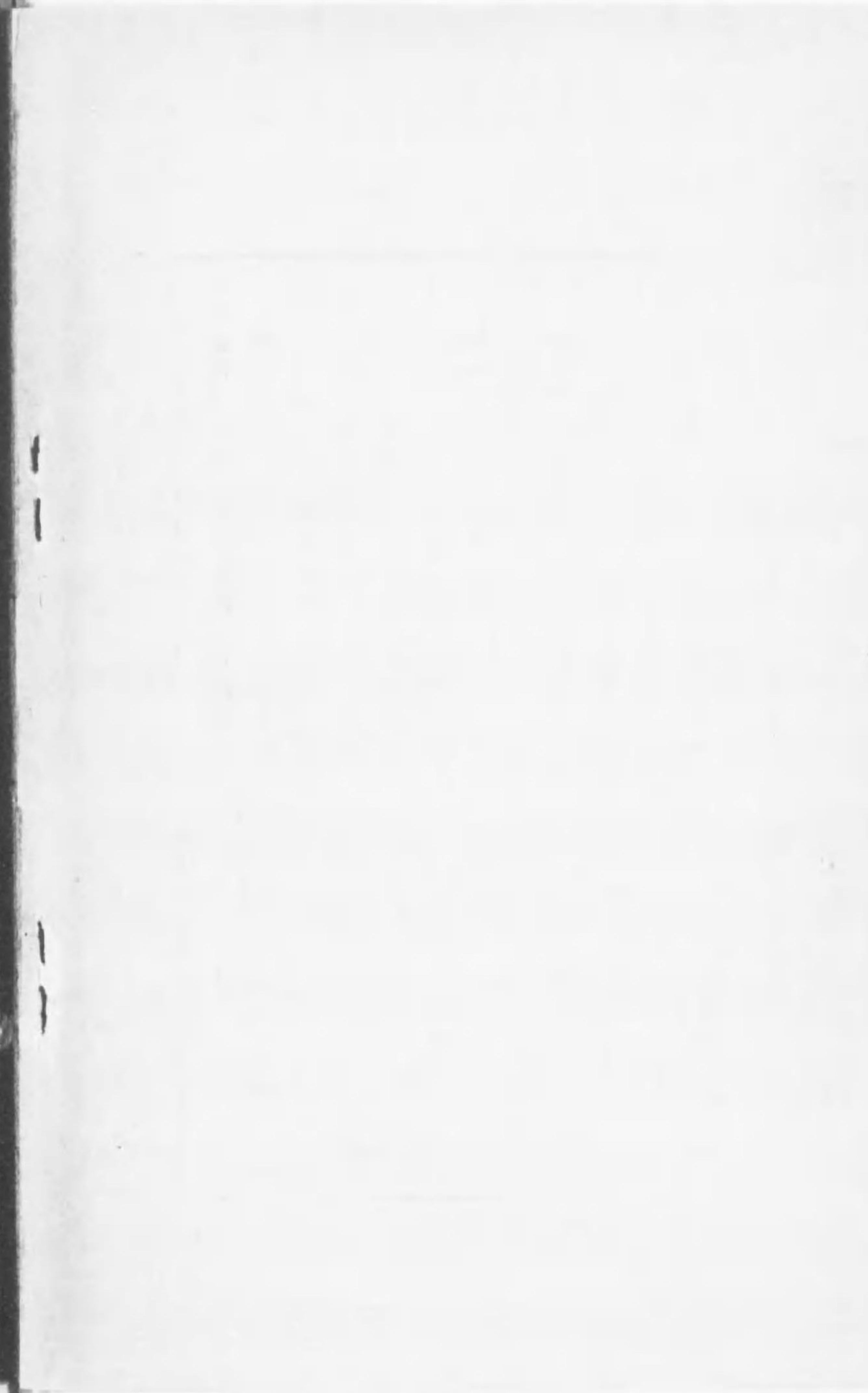
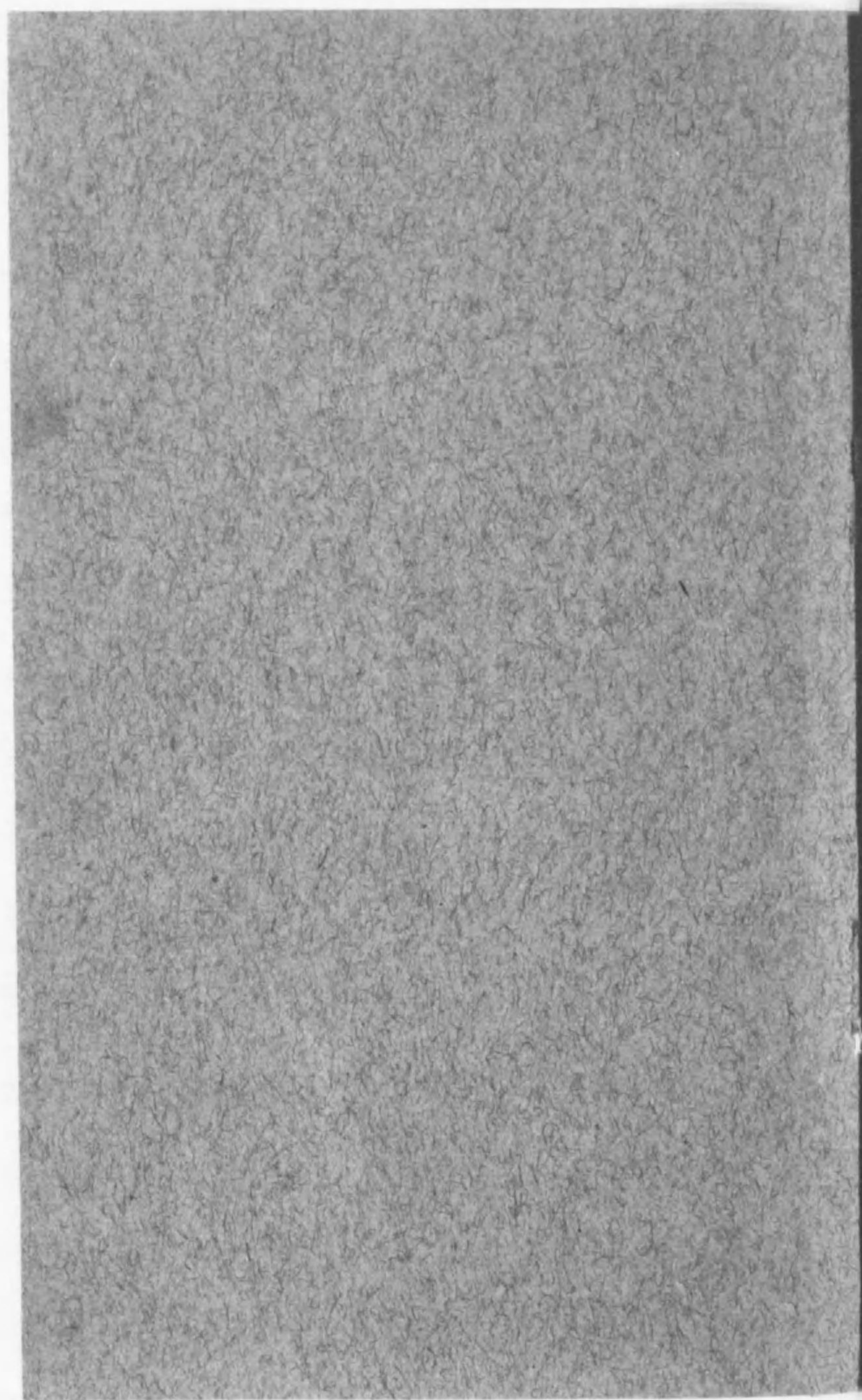
浦若見花咲難寸、梅乎殖而、人之事

重三、念會吾爲類。

うら和可み者那さ支可た支无めを字
衛てひとこ東之計見お毛非乎所春留

又家持贈藤原朝臣久須磨歌二首

情八十一、所念可聞春霞、幄引時二
事之通者。



301
10

昭和十年六月二十日印刷
昭和十年六月廿五日發行
定價金貳圓五拾錢

東京市下谷區中根原町七二 武田墨彩堂
編輯者 かな名讀全集刊行會
代發者 武田基一
東京市下谷區中根原町七二
發行人 武田基一
印刷人 黒川秀藏
東京市下谷區中根原町六丁目一六〇

發行所 武田墨彩堂
東京市下谷區中根原町七二
電話 根原三三七番
傳真 東京六〇五四八番

昭和十年六月二十日印刷
昭和十年六月廿五日發行
定價金貳圓五拾錢

東京市下谷區中根原町七二 武田墨彩堂
編輯者 かな名讀全集刊行會
代發者 武田基一
東京市下谷區中根原町七二
發行人 武田基一
印刷人 黒川秀藏
東京市下谷區中根原町六丁目一六〇

發行所 武田墨彩堂
東京市下谷區中根原町七二
電話 根原三三七番
傳真 東京六〇五四八番

301
10

昭和十年六月二十日印刷 定価金貳圓五拾錢
 昭和十年六月廿五日發行
 三才堂出版
 (本配同七第) 集葉萬宮桂
 發行所 東京市下谷区中野町七二
 武田 謙三
 印刷人 黒川 秀一
 代價者 武田 謙三
 かな名 武田 謙三
 發行所 東京市下谷区中野町七二
 武田 謙三

昭和十年六月二十日印刷 定価金貳圓五拾錢
 昭和十年六月廿五日發行
 三才堂出版
 (本配同七第) 集葉萬宮桂
 發行所 東京市下谷区中野町七二
 武田 謙三
 印刷人 黒川 秀一
 代價者 武田 謙三
 かな名 武田 謙三
 發行所 東京市下谷区中野町七二
 武田 謙三

終